

8. 里山

●里山のくらし●

里山には、雑木林、畑、水田、竹林、草地や川など、人と自然とのかかわりで、保ち続けてきたさまざまな環境がみられます。

かつて、里山では、自然を上手に利用した生業が盛んでした。



里山の風景

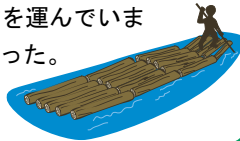
？里山の生業とは？

人々が里山でくらししていくための畑しごとや山しごとのこと。

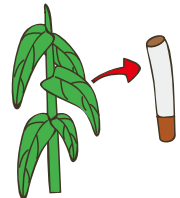
- ・養蚕（カイコを育てて絹をつくる。）
(山北町 他)



- ・焼畑をして、クリ、ソバ、マメ、桑の栽培
- ・豊かな草地を利用した酪農
- ・川を利用して、筏で木材を運んでいました。水車もたくさんあった。
(相模原市津久井町 他)



- ・葉タバコ、大根、綿の栽培
(秦野市)



- ・絹糸や座敷ぼうきづくり
(愛川町半原)



- ・お茶やみかんの栽培（昭和30年代以降）
(1955年)
(松田町 他)



- ・炭焼きが盛んで、馬で厚木や伊勢原の宿場に運んでいた。
- ・マメの栽培（丹沢味噌）
(清川村 他)



- ・道志川や相模川から流れてくる木材を束ねて下流に流す場所「アツメギ」から「アツギ」と呼ばれるようになったとか。
(厚木市)



- ・川のきれいな水を利用した豆腐やソバづくり
(伊勢原市)

